



# 今後の茨城県北ジオパークを語る会

2019年7月28日 茨城大学水戸キャンパス

ファシリテーター：松原 典孝

(兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科)

テーマ

- 今までのジオパーク活動で良かったこと、達成感を味わったこと。
- これからジオパーク活動で何を伝えてゆきたいか？
- ジオパークの仲間づくり（市町村、地域、他の団体、企業、他のジオパークなど）



# 1) 今までのジオパーク活動で良かったこと, 達成感を味わったこと(1/3)

- ガイドして思いを伝えることができた
- 特に若い人に聞いてもらえ, 自分の思いを広げられた
- 多くの人に出会えた
- 母校に貢献できた. 社会に還元できた
- 最初は大変だった. 企画運営. 達成感を得られた
- 奥が深い
- 興味がわくようになった
- 学生プロジェクトとして, IPや行政関係者と関係が持てたことが良かった. 学生としてそうした方々に関われる機会は少ない. ジオパークのおかげ.
- 地学に興味を持つ機会を多くの方々に提供できた. 県庁25階のジオパークコーナーでの解説,
- ガイドしていて文献をツアーで紹介したところ, 参加者から初めて知ったと喜ばれた

# 1) 今までのジオパーク活動で良かったこと，達成感を味わったこと(2/3)

- 大学が中心でやっていることで，先生方と近しい位置にいられ，専門知識も身につく
- 地域を見直す良い機会，再発見につながる機会となった
- 地域だけでなく県北全体を見通す機会となり，地球全体を俯瞰的にみられるようになった
- 地域貢献ができるようになった．交流できていなかった人との出会い
- 他の市民団体とのつながりも
- ガイドしていく中でブラッシュアップできた
- 自治体や児童とのふれあい，ツアーのリピーター
- 自分たちの企画を通じて新しい多くのことを知ることができた
- 全国のGP関係者と情報共有
- 多くの方の協力を得られた，活動の幅が広がった

# 1) 今までのジオパーク活動で良かったこと, 達成感を味わったこと (3/3)

- 地元に詳しくなり地元の支えになった
- 神社仏閣や地名の由来にジオがあることが分かった
- 認定されている活動をしている充実感
- 地元について, 自治体と連携して成果を残せた
- 多くの方と連携. 1自治体ではなく複数自治体と連携
- 県北の中で, そして日本中で仲間がいる
- ものの見方が総合的になり, ジオストーリーを作る力がついた

## 2) これからのジオパーク活動で何を伝えたいか？(1/2)

- 郷土の誇りを持てるようになったか。地の利，人の輪，先達たちの知恵や生き様，見直し，誇りを持つようにする
- 県北地区，茨城のうまいものの宣伝が足りない。常陸秋そばなど，ジオパークとつながっていないのではないのか？
- 袋田の滝は有名だが，袋田の滝でSDG s，継続可能な水の循環を守る。グレードアップ
- 常陸太田は日本の中心。棚倉断層が真ん中を通っている。竜神峡など，地域を見直す，特に若い人たちに伝える
- 火山がないが，火山について伝えないのではなく，火山灰などもあるので，無関係ではないということも伝える
- 洪水等防災，ハザードマップなどの知識が伝わっていない。減災を目的に伝えていく。
- 自分が勉強して，それをイベント等で伝えていく。
- 何十年後，子どもたちに地域のことを伝えていくために，学習教材の開発も必要

## 2) これからのジオパーク活動で何を伝えたいか？ (2/2)

- 違った目線にジオ要素を入れる
- 地域おこしだと、寺社仏閣が多いが、そこだけではなく、大地の利用の仕方、なども、伝えていく
- 地層中に気候変動が記録されている。それを伝えていく
- 防災について発信。どう危険か。なぜ危険か
- **SDG s** について考え伝えていく
- 自然観察会を開いて、地質から見た自然を学習
- ジオパークを身近に感じられる活動
- 自分たちの身近なものに発見・深堀を。何でもないことでも新鮮
- 大地と地元の魅力を伝えたい
- 協議会に機能してほしい。市町村の活動は？

### 3) ジオパークの仲間づくり(1/2)

- 日立では、山間地の農家とタイアップ。カンブリア紀を売り出している地域では、カンブリアの湯やカンブリアの伏流水など。
- 企業と連携することが大切。道の駅や小さな企業でも、里山を生かす。
- 県会議員市会議員：県議会からプッシュしてもらう
- 地元の議員を通じて、連携を取りながら、政治力を活用する
- 土木建設業関係
- 地域おこし協力隊
- 学校、教育委員会との連携
- 地元の環境に関する団体と協力。
- 森林セラピー
- ほかのジオパークで行われている活動に取り組むことで他ジオパークとの連携も図れる

### 3) ジオパークの仲間づくり(2/2)

- 旅行業関係者，関係企業を味方にする
- ツアーに関しては，IPだけでなく，歴史の専門家などを呼んで参加者に伝えていくことも重要
- 市町村とのつながりが希薄
  - ：地元の人たちや市町村担当者が興味を持つようなイベントを企画．行政の人が動いてもらいやすい環境を作る
  - ：地元の人だけでできる商品開発→食いついてもらう
- 人と人のつながりが見える
- 誰がやっているのが見えないと連携協定結べない．誰がやっているのか見えるように．
- ネットワークは大事だが，茨城県北のネットワークはあるはずなので，パートナーシップを使う
- ※非公式ではつながりは生まれにくい．外に見えるように．